

2022年3月24日

各 位

「SDGs 応援リース」の契約及び寄付について

株式会社山形銀行（頭取 長谷川 吉茂）の 100%子会社山銀リース株式会社（社長 柿崎 正樹）は、遠藤商事株式会社（社長 遠藤 靖彦）の SDGs の促進に資する設備導入において、「SDGs 応援リース」を下記のとおり契約いたしました。また、2022年3月28日、当社が拠出するリース料の一部と遠藤商事株式会社が拠出する資金を合わせ、山形県立寒河江工業高等学校に寄付することとなりましたのでお知らせします。

「SDGs 応援リース」はお客さま及び地域の SDGs を促進することを目的とする製品です。製品の特徴として、お客さま及び当社で選定した SDGs の促進に向けた取組みを行っている団体へリース契約額の 0.2%相当額を寄付いたします。

当社はこうした取組みを通じて、お客さま及び地域社会の SDGs への取組みを全力で支援してまいります。

記

契約企業名	遠藤商事株式会社
代表者	遠藤 靖彦
所在地	山形県山形市穂積 85 番地
事業内容	石油製品・LP ガス・OA 機器・住宅設備機器・ガス器具 家庭用電化製品・セメント・生コンの販売ほか
SDGs 促進に資する設備 （総称）	1.シャープ SS-POS ターミナル RZ-A473SC ほか 1 式 2.ビューター セルフサービス向け洗車機 MIYABI MYB-II 1 式
契約概要	1.契約日 2021 年 12 月 24 日 物件価額 19 百万円 リース期間 7 年 2.契約日 2021 年 12 月 24 日 物件価額 10 百万円 リース期間 5 年
企業の特徴・SDGs 促進に 向けた取組み等	詳細は別紙 1 参照
寄付	寄付先 山形県立寒河江工業高等学校 寄付金 金 200 千円 詳細は別紙 2 参照

対応する SDGs	<p><物件による SDGs 促進></p>    
	<p><寄付による SDGs 促進></p>      

以上

本件に関するお問い合わせ先
山銀リース株式会社 本社営業部
山川（政）・高橋（雅）
TEL 023-632-4983

1. 企業概要

- (1) 企業名：遠藤商事株式会社
- (2) 代表者：遠藤 靖彦
- (3) 所在地
 - ① 本 社 〒990-8558 山形県山形市穂積 85 番地
 - ② 仙台支社 〒989-3122 宮城県仙台市青葉区栗生 1-1-4
 - ③ 鶴岡支店 〒997-0802 山形県鶴岡市伊勢原町 1-44
- (4) 資本金：99 百万円 (5) 設立：1928 年（昭和 3 年 4 月）
- (6) 従業員：239 名
- (7) 事業内容
 - ① 石油製品・LP ガス・OA 機器・住宅設備機器・ガス器具・家庭用電化製品・セメント生コンの販売ほか
 - ② 設備工事の請負施工及び設計管理、給水用防錆剤の販売及び保守事業・住宅リフォーム、損害保険代理業
 - ③ ハワイウォーターの販売、中古車販売（ネットオークション）、住宅用太陽光発電システムの販売、野菜工場、ほか

2. 「SDGs 応援リース」契約内容

- (1) シャープ SS-POS ターミナル RZ-A473SC ほか 1 式
 - ① 現金による釣銭精算を大容量釣銭精算機に集約するセルフサービスシステム。アイランド精算と同様、注文・給油・精算はフィールド内で完結するため、お客さまの移動が最小限となり、給油に係る全体的な時間の短縮や安心・安全な導線の提供が可能となる。加えて注文機の操作性も向上しており、お客さまの利便性が向上する。
【お客さま利便性向上】
 - ② 設置機器が少なくなるため、敷地の有効活用が可能となる。また、大容量釣銭精算機により釣銭補充回数が削減でき、業務の効率化、生産性向上がはかれる。
【業務効率化】【生産性向上】
 - ③ 契約日：2021 年 12 月 24 日 物件価額 19 百万円 リース期間 7 年
- (2) ビューター セルフサービス向け洗車機 MIYABI MYB-II 1 式
 - ① トップノズルに入庫専用の 3 灯式信号灯を搭載、入庫時に降下することでお客さまはより近い位置で確認することができる。加えて、退出時の独立した信号灯も搭載。機内に信号灯を登載したことで外部の光の影響を受けにくく視認性が向上、お客さまは安心して入庫することができる。退出用信号灯もスムーズな退出アシストが可能。なお、英語表記も併記、海外の方にも対応できる。【お客さま利便性向上】
 - ② 高性能・高品質を確保しながら、省エネ・省資源にも配慮した仕様を採用している。
・コーティング時、専用ノズルユニットが車輻に接近して薬剤を塗布することで、余分な

薬剤吐出を抑制

- ・従来比 50%の水使用量でリンス可能なエコロジー洗剤を採用
- ・乾燥システムにファンとモータを直結させたファンを採用しており、送風ロスが非常に少なく、従来機より大幅に乾燥力が向上、など。

【省資源】【省エネ】【お客さま利便性向上】

③ 契約日：2021年12月24日 物件価額 10百万円 リース期間 5年

(3) 寄付：寄付先 山形県立寒河江工業高等学校（校長 渡邊 晃）

寄付金贈呈式 2022年3月28日（月）

寄付金 金 200千円（山銀リース、遠藤商事の連名）

(4) 設備投資による SDGs 促進

No.7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

No.8「働きがいも経済成長も」

No.11「住み続けられるまちづくりを」

No.12「つくる責任つかう責任」

(5) 寄付による SDGs 促進

No.4「質の高い教育をみんなに」

No.9「産業と技術革新の基盤をつくろう」

No.11「住み続けられるまちづくりを」

No.14「海の豊かさを守ろう」

No.16「平和と公正をすべての人に」

No.17「パートナーシップで目標を達成しよう」

3. 当社の SDGs への取組内容

(1) 当社は地域を代表するエネルギー関連企業として、20世紀の「地球を消費する」石炭・石油を中心とした時代から、21世紀の「地球にやさしい」新しい代替エネルギーの開発・実用化の時代への社会構造の変化を踏まえ、その変化に早い時点で柔軟に対応することでお客さまや地域社会にこれまでと同様の安全と安心をお届けしていくことを使命としている。

(2) 当社は、経済的な成長を実現するだけでなく、地域の中で暮らすお客さまにとって望まれる会社として存在するという真の存在意味としての「社会的な企業価値」を常に自問自答しながら追求している。例えば、エネルギー以外にも様々な分野の商品・サービス提供への取組みは、エネルギーというお客さまや地域社会のライフラインを担うと同時に、常に暮らしに密着したあらゆる側面を支えていきたいと願う当社の企業姿勢である。

(3) この姿勢を貫き、時代の先端であり続けるため、「企業は人」との認識のもと、お客さまや地域社会の刻々と変化するニーズにしっかりと対応できる人材育成や様々な社会貢献活動に取り組んでいる。

(4) イーベジ・ファーム（野菜工場事業）

① 概要

- ・場所：山形県天童市清池東 ・設立：2016年5月出荷開始
- ・県内約250店舗に安定供給 ・工場棟面積：1,601 m²
- ・栽培面積：2,150 m² ・栽培棚段数：6～7段 ・栽培用LED：約8,768本
- ・最大生産数：レタスペースで約3,000株/日
- ・環境制御項目：【温度】【湿度】【CO2濃度】【照射時間】【養液濃度】【養液ph】

② 目的・願い：「地域循環共生圏」への貢献

（遠藤社長の思い「地元農家に貢献したい」）

- ・定年後の再雇用、地元の雇用創出
- ⇒ 定年後の再雇用機会提供 ～ 働きやすい環境整備
- ・雇用した労働力で商品を作り販売（冬期も安定して出荷可能）
- ・販売した利益で、更なる雇用につなげる
- ⇒ 「若者」「高齢者」みんなが喜んで働ける野菜工場運営
- ⇒ 県内既存農家との「共存しながら」野菜工場運営

③ SDGs 促進への取組み

- ・定年後の再雇用機会、地元雇用を創出（スタッフの75%が60歳以上）
- ・「地域循環共生圏」への貢献 ・若者も高齢者も安心して働ける職場
- ⇒ No.8「働きがいも経済成長も」、No.11「住み続けられるまちづくりを」
- ・二酸化炭素排出抑制の取組み ・LED栽培
- ・太陽光発電（2020年2月稼働、2020年度CO2削減量190.21トン）
- ・栽培用養液の循環利用
- ⇒ No.7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、No.9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、No.13「気候変動に具体的な対策を」
- ・持続可能な食糧生産システム（強靱な農業の確立）
- ・農薬不使用栽培により健康への影響をなくす
- ・商品ロスの低減、コールドチェーン確立
- ⇒ No.2「飢餓をゼロに」、No.12「つくる責任つかう責任」

参考：イーベジ・ファーム商品

- ・「いつものレタス」、「フレアーレタス」、「ベビーリーフといつものレタス」、「レタスマックス」、「10菜ミックス」
- ・「苦味やえぐみが少なく、子供達にも好評」、「虫や菌のリスクが少ない」
- 「一般的なレタスと比べ、カリウム（降圧）、βカロテン（美肌・抗酸化）、鉄分（貧血・免疫力）、マグネシウムの含有量が多い」と評判。

(5) その他の社会貢献

① 公益財団法人エンドー学術振興会

・1996年（平成7年）設立。特に青少年のスポーツ振興を目的に関連団体に助成金を贈呈。これまで125団体、総額5,336万円に助成金を贈呈。

② ENDO杯ソフトバレーボール大会

・1994年（平成5年）より開催。レクレーションと体力づくりの機会と場所の提供を目的に実施。子供から中高年まで終日気軽に楽しめるとあって、例年県内各地から約80チーム、約500名が参加。この種の大会では県内最大規模に発展。

③ CAN2活動

・地域清掃活動。毎年5月、エンドーグループ企業にて会社周辺や河川敷（馬見ヶ崎・立谷川など）で空き缶・ゴミ拾い（吸殻など）を実施。

4. 山形県立寒河江工業高等学校のSDGsへの取組内容

(1) 【目指す学校像】

- ・地域に根差し、地域を愛し、地域に愛される学校
- ・一人一人の個性を生かし、工業分野で活躍できる将来のプロフェッショナルを育てる学校
- ・産業・社会の変化を捉えた教育活動を展開し、自己実現できる学校

【目指す生徒像】

- ・自分の可能性を信じ、自己実現に向かって努力する生徒
- ・失敗を恐れない情熱と挑戦力に満ち溢れる生徒
- ・心身ともに健康で、礼儀正しく、勤労意欲に富む生徒
- ・豊かな感性と社会性、国際感覚を持つ生徒
- ・郷土を愛し、地域に貢献する生徒

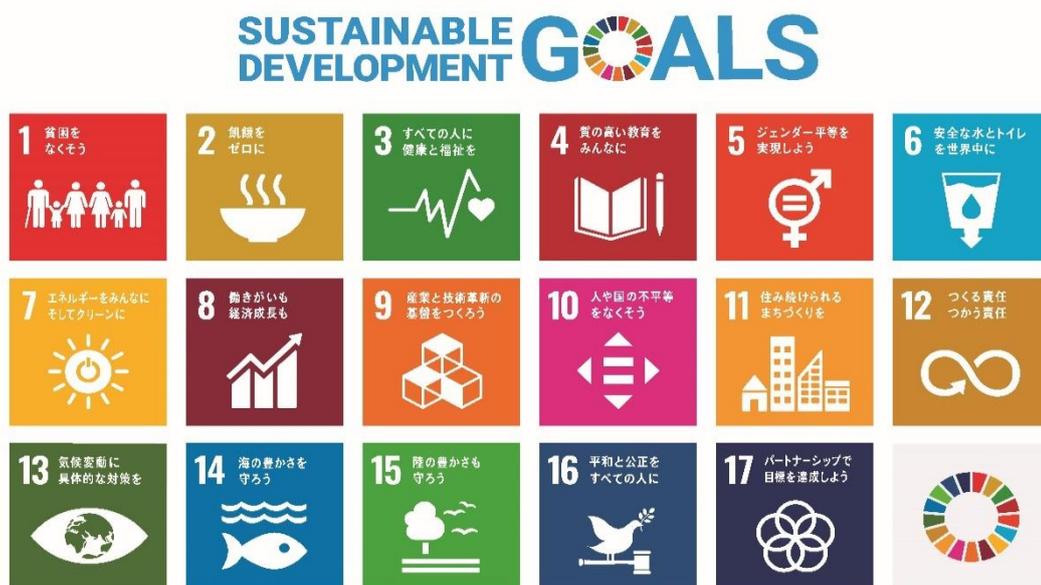
(2) SDGs促進への取組み

【情報技術科有志による海ごみ回収ロボット製作】

- ① マイクロプラスチックをはじめとする海洋ゴミが世界的な問題となるなか、情報技術科有志4名は、県民に身近な庄内浜、そして母なる最上川の「汚れを何とかしたい！」との思いから、自分たちにできることからやってみようと、昨年7月より海中や砂浜のごみを回収するロボットの開発に取り組んでいる。
- ② ゴミにアプローチする手段を考え、「潜水し、カメラでモニターしながら海中浮遊ごみを回収するロボット」、「海面や湖水面を走行し、水面ごみを回収するボートのようなロボット」、「砂浜でのごみ回収をお手伝いする搬送台車ロボット」、「岩場でのごみ回収をお手伝いする搬送台車ロボット」の4種類の製作に挑戦している。
- ③ 潜水タイプのロボットは電子部品への浸水を防ぎ、IoT化をはかるなど最も高難易度だが、日頃の学習の成果を結集し、これまで砂浜やプールなどでの実証実験を行って

おり、今後も改良を重ね、本年9月上旬には庄内浜クリーンアップ作戦でのお披露目も計画している。

⇒ No.4「質の高い教育をみんなに」、No.9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、
No.11「住み続けられるまちづくりを」、No.14「海の豊かさを守ろう」
No.16「平和と公正をすべての人に」、
No.17「パートナーシップで目標を達成しよう」



以上

1. 寄付金贈呈式

(1) 日時：2022年3月28日(月) 11:45～30分程度

(2) 場所：山形県立寒河江工業高等学校 校長室

(3) 出席者：遠藤商事株式会社 代表取締役社長 遠藤 靖彦 様
山形県立寒河江工業高等学校 校長 渡邊 晃 様
山銀リース株式会社 代表取締役 柿崎 正樹
同上 本社営業部部長 青木 郁典

(4) 寄付金：金 200 千円

※当日は目録も手交させていただきます。

(5) その他：報道機関各位にはぜひ取材いただけますようお願い申し上げます。

以上